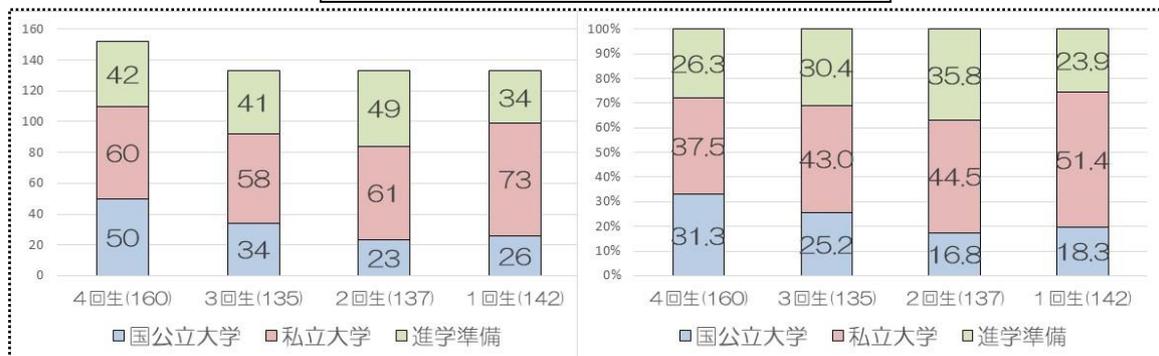


Beyond KUSS, 2019!

回生別進路状況について(その1)



〈回生別進路状況実人数〉

〈回生別進路状況比率(対卒業者数)〉

本校も今春、ようやく4回目の卒業生がそれぞれのステージに向かいました。古くからの高校は70回も卒業生を輩出しています。本校はまだまだ成長途上の学校です。本校の進路の行方を決めるのは、みなさんひとりひとりです。

1回生～4回生までの進路状況について、HP掲載データより変化を確認します。

国公立大学進学者が増加しています。2回生の23名に対し、4回生は50名と倍以上の増加です。10%台から3回生が25%、4回生は30%を超えました。また、4回生は国公立大学進学者数が進学準備者数(いわゆる浪人生)を初めて上回りました。

これに対し、私立大学進学者は減少しています。1回生は50%を超えていましたが、4回生は40%を切りました。卒業生が20名近く増えても、10名以上減少しています。

卒業生は、ごく一部の帰国入学者を除き、附属住吉・明石小学校卒業生です。この状況は6回生まで続きます。卒業生の構成から考えると、進路希望に大きな差があるとは考えにくいです。それでは、なぜ進路状況に変化が生じているのでしょうか。変化の可能性として、生徒・保護者・教員の大学受験に対する考え方があるかもしれません。

「国公立大学は勉強の負担が大きい」、「この成績なら推薦・AO入試を受けておかなければならない」、「浪人したくない、たくさん併願しなければならない」という考え方から、「学びたい大学・学部をめざす」という考え方に移行し始めています。前者は「合格する」ことが目的化し、「大学で学ぶ・研究する」、「社会に貢献する」ための大学受験と考えにくくなります。本校は「大学で学ぶ・研究する」、「社会に貢献する」ための受験をめざしています。

自分がなぜ大学進学をめざすのか、その目的をしっかりと考え、志望校を設定しましょう。

第6回兎原祭(文化祭)に向けて

来週末19日(土)・20日(日)に、第6回兎原祭(文化祭)を開催します。6年生は昨年度の4回生に続き、演劇で参加予定です。「附属中等教育学校で6年間学ぶと、こんなことができるようになる」ということを表現・発表する場の1つです。

卒業研究は「個人」としての要素が大きいです。演劇は「集団(学年、学校)」としての要素が大きくなります。5回生として素晴らしい演劇を創造してください。

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

『Beyond KUSS, 2019!』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。